

音楽の都 ウィーンを旅する

VIENNA / AUSTRIA

中世からヨーロッパにおける音楽の中心地であったオーストリアの首都・ウィーン。18世紀以降は栄華を極めたハプスブルク家の庇護のもと多くの作曲が活躍した。音楽に触れて学ぶには、ウィーンこそ絶好の旅先なのだ。



ウィーン市民の憩いの場でもあるブルク公園。日本語だと王宮庭園と呼ばれる

モーツァルト MOZART

モーツァルトは、1756年にオーストリアのザルツブルクで生まれた。幼い頃からヨーロッパ各地を演奏して回り、6歳でウィーンのシェーンブルン宮殿で演奏、その際に当時7歳のマリー・アントワネットに求婚したという。ウィーンへと居を移したのは25歳の頃。『フィガロの結婚』が作曲された家はモーツァルトハウス・ウィーンとして保存、博物館として公開されている。

ブルク公園 BURGGARTEN

皇帝フランツ・ヨーゼフ1世のプライベートガーデンで、園内には彼の像のほかモーツァルトの像が建つ。像の前の芝生の広場には花でト音記号が描かれ、格好の撮影スポットとなっている。

to do 01

作曲家ゆかりの地へ



像の前は花咲くガーデンとなっている

ヨハン・シュトラウス2世 JOHANN STRAUSS II.

ウィーン生まれの作曲家ヨハン・シュトラウスは1世、2世ともに活躍したが、よく知られているのは2世のほう。バイオリンを弾きながらワルツを指揮するという独特のスタイルで、ヨーロッパのほかアメリカでも成功を収めた。

ヨハン・シュトラウス記念像 JOHANN-STRUSS-DENKMAL

バイオリンを奏する黄金の像は、ヨハン・シュトラウス2世。1862年にオープンした市民公園の一角に建つ。園内にはほかにもシューベルトやブルックナー、レハールの像がある。

ウィーンを舞台に活躍した作曲家は数知れず。まずは知っておきたい3人の天才作曲家について学び、ゆかりの地を訪れてみよう。



photo: Kollectiv Pischke/Kramar © Wien Museum

ベートーベン・デスマスクも展示されている

ベートーベン BEETHOVEN

1770年にドイツのボンに生まれ、ウィーンに活躍の場を移したベートーベン。1800年頃から難聴を患い苦悩するも、数々の名曲を生み出した。生涯で70回以上も居を移し、いくつかの家は博物館として保存・公開されている。



Joseph Danhauser © Wien Museum

ベートーベン博物館 BEETHOVEN MUSEUM

いくつかあるベートーベンの博物館のうち、最も有名なものはハイリゲンシュタット遺書の家と呼ばれる場所。聴覚が戻らないことを嘆いたベートーベンが弟に宛てて遺書を書いたことに由来する。

クラシック コンサートを聴く

ウィーンに来たらぜひ、本場のクラシック音楽を聴いてみよう。数あるコンサートホールの中なかでも、最も有名なのは国立オペラ座。1869年にモーツァルトのオペラ『ドン・ジョヴァンニ』でこけら落としが行われ、現在でもオペラやバレエの演目が上演される。楽友協会は、かのウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の本拠地。9～6月には定期コンサートが催される。またハプスブルク家の王宮礼拝堂では、9月中旬～6月中旬の日曜ミサにおいて、ウィーン少年合唱団が歌声を披露する。

国立オペラ座

STAATSOOPER

<https://www.wiener-staatsoper.at>

楽友協会

MUSIKVEREIN

<https://www.musikverein.at>

王宮礼拝堂

BURCKAPELLE

<https://www.hofmusikkapelle.gv.at>



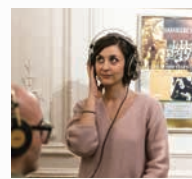
1.音楽の都の象徴でもある国立オペラ座 2.豪華な内装の国立オペラ座。内部見学のガイドツアーもある 3.楽友協会では、観光客向けのコンサートも随時開催 4.国立オペラ座や楽友協会のチケットはオンラインでも購入可能



HausDerMusik©HannaPribitzer



音楽に合わせて指揮棒を振る。最後までやり遂げると団員からお褒めの言葉がもらえる



HausDerMusik©HannaPribitzer

左)クラシカルな建物にも注目
右)クラシックの名曲を自由に聴くことのできるコーナーもある

音楽を学んで体験

作曲家について学び、本場のコンサートに酔いしれたあとは、さらに音楽に触れる体験をしてみよう。音楽館は、1842年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団が結成された旧カール大公の宮殿にある、体験型の博物館。スクリーンに映るウィーン・フィルハーモニー管弦楽団を指揮したり、コンピューター制御の楽器で演奏や作曲ができたりと、音楽に楽しく触れることができる。鍵盤のようなデザインをした階段を上ると音が出るなど、ユニークな仕掛けもたくさん!

音楽館 HAUS DER MUSIK <https://www.hausdermusik.com>

スイツ王国、オーストリア

中世から社交や情報発信の場としてカフェ文化が開花したウィーンには、カフェやケーキ屋さんがたくさんある。伝統スイーツのなかで絶対に味わいたいのが、ウィーン生まれのチョコレートケーキ、ザッハートルテ。発祥の店はカフェ・ザッハーで、今も当時のオリジナルレシピで作られている。



チョコレートのスポンジにアプリコットジャムをサンドしたカフェ・ザッハーのザッハートルテ



ホテル・ザッハーの建物内にあり、観光客でいつも満席

カフェ・ザッハー CAFÉ SACHER

<https://www.sacher.com>

ジェネラルインフォ in オーストリア

時差 日本より-8時間(サマータイム実施期間は-7時間)

ビザ 180日間で90日以内の観光なら必要なし

ベストシーズン 夏の6～9月がベストだが、国立オペラ座での上演が行われるのは9～6月。

通貨 ユーロ(€)。2022年8月現在、€1=137.56円

物価 日本とほぼ同じかやや高いくらい。都市部は宿泊費と外食費が高つく。



詳しくは『地球の歩き方 ウィーンとオーストリア編』へ

オーストリアへの入国について

2022年5月16日から、新型コロナウイルスに関する入国制限はすべて解除されている。ワクチンや感染からの回復、陰性証明はすべて必要ない。ただし疫学的リスクが高い特定国からの入国は除く(日本は含まれていない)。



つづきをダウンロード(無料)



Hostelling Magazine vol.30
まとめてダウンロード



LiLiCoの映画で世界を旅しよう！…… P17



Cover Interview …… P02

辻井 伸行
みんなが世界中の人と
つながってほしい



おしえて！旅GIRL …… P18



Youth Hostel Pick up …… P10

立科白樺高原ユースホステル
森と湖に囲まれたユースホステルから
必要とする人に旅を届けたい



松島むうの晴れときどき旅びより …… P19



Hostelling Magazine x 地球の歩き方 … P14

音楽の都 ウィーンを旅する



YH-GUIDE ユースホステルガイド …… P20

関東/北信越地方



FYI, from HI-Office …… P16

発行所：一般財団法人日本ユースホステル協会

編集・発行人 寺島眞

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

国立オリンピック記念青少年総合センター内

※本誌の情報は2022年9月20日現在のものです。

変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。

※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。